

1. はじめに

静岡県では、近い将来発生が予測されている“東海地震”等によって、各地に災害が起きることが危惧されていて、県および各市町村は、これら災害の対策を順次進めてきています。しかしながら、災害に対する万全の備えを実現するためには、住民の防災に対する積極的な備えが不可欠です。

過去の地震、あるいは津波などの場合、一度それらの災害を経験したことがある地域では、住民の防災意識が高く、避難その他、災害に対する適切な対応がとられていることが、アンケート調査などの結果からも明らかにされています。これは災害の体験から、その地域に災害が発生するとき、どんな徴候があるか、災害時にどんな行動をしたらよいかなどの知識や技術が生まれてくるため、この種の知識や技術は“災害文化”(災害と情報研究班,1982)と呼ばれています。このような“災害文化”の普及が防災に対する積極的な備えを実現するための重要な要素となるのです。

静岡県下の住民で、過去に地震・津波の災害を体験した人の数は、それほど多くはありません。1944年(昭和19年)の東南海地震以降は全県規模の災害はなく、県内住民の大部分は大きな災害を経験していないことになります。

しかし、災害体験からのみ“災害文化”が普及できる訳ではありません。私達は、過去の災害の歴史のかなり豊富な資料をもっていて、いま再び、それらの災害が繰り返されれば、それぞれの地域でどのような状態になるかを推定することができます。このような過去の災害の記録を広くお知らせすることによって、住民の意識の中に“災害文化”を高めることができるのではないか、このような見地から、過去に発生した静岡県の災害を、各市町村別に調査し、項目別に年表形式のとりまとめを行いました。

2. 災害史の内容

静岡県下で、現在もっとも重視されるべき災害は、東海地震や神奈川県西部の地震とその津波による災害です。そのためこの今回の調査でも過去の地震・津波災害の掘り起こしに力点がおかれました。しかし、その他の気象災害も発生頻度も多く、またかなり多大な損害を受けます。そこで、今回は、つぎの各項目に分類して、それぞれの項目ごとに災害史を調査しました。

1.地震 2.津波 3.高潮 4.火山 5.台風 6.豪雨 7.竜巻 8.早魃 9.冷害

調査対象地域は、静岡県全域の市町村を1つの単位とし、静岡市は範囲が非常に広いので、南部・中部・北部の3地域に分割しました。

調査の方法としては、文献・古文書・郷土史資料などから、災害項目別・市町村別に災害1件に1枚のカードを作成し、それを市町村別に整理しました。これらの災害事例と別に、各市町村の地形・地質および気象の概況を短くとりまとめ記載するとともに、当該市町村に特有な“防災上の留意点”を、これも短く付記してあります。

以上の内容について、それぞれの出典は、災害種別・地震別など、大項目に区分したうえで、

ローマ字アルファベット順に、調査資料リストとして示してあります。

なお、地震・津波・火山の項目については、被害のあったもの、あるいはとくに記事のあるものを取上げてあります。その他の項目については記事のあるものを全部取上げると、非常に数が増えるため、また災害としての重要度を考慮して、記載基準を設けて記載事項を取捨することにしました。

3. 災害の地域別・年代別一覧表

各種の災害が、どの地域範囲に、いつ発生しているかを、地域別年代表の形式にとりまとめました。

地域の区分は各県行政センターごととしましたが、その地理的な関係から、表示の際に一部の順序を入れ替え、熱海・伊豆・東部・富士・中部・志太榛原（志榛と略記した）・中遠・西部・北遠各県行政センターの順に、表の上欄に示してあります。

年代は、縦方向に上から下へ進むようになってあり、災害の発生した年月日を表示した行に、その災害を受けた地域を記号によって示しました。

ここでは、全部の災害を1つの表に盛り込むことは、大きさの関係で困難ですので、各災害の種別ごとに取りまとめてあります。それでも広域にわたった災害、比較的局部的で済んだ災害など、その災害の特徴を知ることができます。例えば地震災害を見ると、1704年や1854年の地震は全域にわたる災害ですが、1923年、1930年の地震は、ほとんど東の地域に限られています。それに対して1944年の地震は、西の地域に限られています。また最近、東の地域に限られた地震災害が多発していることも、表から読みとることができます。

4. むすび

市町村別災害一覧は、市町村別に地震をはじめとする各種自然災害を、最近のものから時代をさかのぼるように配列してあります。その中では、さらに字あるいは旧町村名のさらに細かい単位での災害の記述もあり、自分の住む地区での過去の災害の程度を具体的に知ることが可能です。市町村単位という区域の中でも地区毎に災害の程度はかなり異なるのが普通で、そのような違いも含めて、自分の住む地区の災害の特徴を知ることが重要です。

また災害の地域別・年代別一覧表は、それぞれの地域が、過去どの程度の額度で災害を受けてきたか、また災害の頻度の高い地域はどこかなど、時間的・空間的な災害の特性を明らかにしています。

この”静岡県災害史”をご覧になった方がこれらの知識を吸収して、防災に対する心構えを一層強め、地震その他による自然災害を、最小限に食い止めることができるよう期待しています。

文献：災害と情報研究班、1982,1982年浦河沖地震と住民の対応,東京大学新聞研究所,189pp.

5. 調査研究の体制

調査主体	(財) 地震予知総合研究振興会 地震・津波災害研究会
主査	力武 常次 日本大学文理学部教授・東京大学名誉教授 相田 勇 (財) 地震予知総合研究振興会主任研究員 茅野 一郎 東京大学地震研究所助手 菊池 万堆 日本大学講師 北川 光堆 静岡英和女子学院短期大学教授 〈50音順；敬称略 調査当時〉
調査年	昭和62年
増補分調査	(財) 静岡県防災情報研究所 平成9年

6. その他

引用について	<ol style="list-style-type: none">1. 非商用目的に限りこの資料の転載・引用を許可します。商用目的で転載・引用する場合は別途研究所まで御連絡下さい。2. 転載・引用する場合は必ず”「静岡県災害史」静岡県地震対策課編”等の注記を記載して下さい。
地名表記について	<ol style="list-style-type: none">1. JIS規格の関係上、地名等の漢字が略字等で表示されている場合があります。